

五言絶句→一つの句が五文字で四句で形成しているもの。

絶句には起承転結があります

『春晓』 孟浩然

起 春眠不覚晓 春眠晓を覚えず (しゅんみんあかつきをおぼえず)

春に眠るのは心地がいい、夜が明けるのも気づかないほどにいい。

承 处处闻啼鸟 处处啼鸟を聞く (じょじょこころちやうをきく)

あちこちから鳥の鳴き音が聞こえてくる。

転 夜来风雨声 夜来风雨の声 (やらいふううのこえ)

昨夜は風雨の音がしていた。

結 花落知多少 花落つること知る多少 (はなおつることしるたしょう)
いったいどれほどの花が散ったことかだろうか。

押韻 (おういん) ……同じ響きの言葉を句の最後に置くこと

※五言絶句では、第2句末と第4句末に使われますが、

春晓は第1句末、第2句末そして第4句末が押韻となっています。

晓 (ぎょう)、鳥 (ちやう)、少 (しょう)

その他に

七言絶句→一つの句が七文字で四句で形成しているもの。

五言律詩→一つの句が五文字で八句で形成しているもの。

七言律詩→一つの句が七文字で八句で形成しているもの。

があります。